

〔研究ノート〕

不良・非行関係用語の一考察

重松
一義

〔平成期以前の用語〕

あおかん 青姦。青空のもと野原で犯すこと。現在は「デート・レイプ」の実態からみて、ナンパと青姦の境があいまいである。

あごとり 取り調べ、供述をとること。

あごはる 否認すること。黙秘。

あぶれ 「ぐれ」「いかれ」「不良共」「いいかげんな連中」などの意。

あみ 警察の取り締まりの網。張込み。

いぬ 犬、密告者、チンコロやろう、売り込んだ奴、たれ込んだ奴。「チツクリ」する者をいう。

円太郎 貞操観念のない女。売春婦。

うたう 告白する。

エス S、女子学生間の同性愛。

エス・ビー S・B、恋人のこと。

エッチ H、学校をさぼり、遊びにふける不良女子学生のことを指した。現在は「卑猥な行為」「助平といわれる行為」を一般的に呼称。

えんこじよう 金属手錠のこと。

おけら 「しける」ともいい、一文無し、金欠のこと。

おちよくる 「なめる」「小馬鹿にする」との関西弁。

おとしませ 解決金、つくない代。

おんぶ 共犯者。「ぐる」「だち公」などの表現に連なる意。

がいしゃ 被害者のこと。

角兵衛 変装のこと。

かたをつける 話をつける。

かちあげ 「かつあげ」「たかる」ともいい、恐喝すること。

かぶ 分配すること。

かちをふむ 未遂に終わる。

かりむし 少年刑務所。

がんづけ 「がんだれる」「づけがん」ともいい、相手の眼を敵意をもって睨むこと。通常、「がんづけした」

と言いがかりをつけ、喧嘩の端緒となる。

きすぐれ 酔っ払い。

きつばらい 無銭飲食。「ろは」「ろじお」ともいう。

空気を入れる 煽動する。

ぐにや 質屋。「くら」「ぐに」「ぐんにや」。

くもり 警察の一斉取り締まりがあるという内部情報・予感。「空襲警報」ともいった。

ぐれ公 不良少年。「ごろ」「ごろ助」「でん助」「よた」(与太もん)ともいわれる。

ごと 仕事。盗みや売春をも広く含む。

ごぶ 子どものこと。「ガキ」「ジャリ」「ひよこ」「ルビ」ともいう。

ごろまく 喧嘩をすること。「ノス」ともいう。

さつ 警察、警察署。

しま 縄張りのこと。

しゃてい 舎弟、弟分、乾分。

はくい 美しい姿態の女。

じょうらん 決められた正規の学生服。戦後は「ガ克蘭」という。

すけとん 「あば」ともいい、嘘のこと。

すじもん やくざ、遊び人、前科のある者。「やーさん」ともいう。

ずべ公 不良少女。「ずべ」「すでこ」ともいった。

すけばん 女番長のこと。陰の番長は「ウラバン」という。

ずらかる 逃げる。「とんずら」「うさぎ」ともいう。

せん公 先生。詐欺仲間の相談役を先生と呼ぶ場合がある。

そうめん 細長い紐ひもの形から「捕縄」のこと。

たいいん 退院すること。少年院を出ること。

たちばん 用心棒のこと。「番格」は不良グループの用心棒役。

だち 友だち。親友は「マブダチ」。

ため 「対等な」の意。「ためぐちをたたく」と因縁をつけたりする。

だんびら 「ながとす」ともいう。日本刀のこと。小刀は「こぶり」「やあー」「やつば」という。

忠兵衛 仲間の加害者と被害者の間を上手に取りなし、事件が表沙汰まじり（警察沙汰・政の沙汰ともいう）になら

ぬよう隠蔽かくぺいする工作者。

藤四郎とよ

素人のこと。玄人くろうと（プロのこと）は「とうろく」とも呼ぶ。

肉風呂 強姦すること。「豆泥棒」などと俗称。婦女暴行の表現が正しい。

にゃん 猫のごとく屋根伝いに忍び込む手口。

のす 殴打。殴り倒すこと。

のび 窃盗。「忍び」の意の省略。

渡りをつける 連絡をつける。

ばくられる 逮捕されること。

はじき ピストル（拳銃）。

ぱんすけ 「パン助」「パンパン・ガール」「ピー」「ピーチ」などと終戦直後は呼ばれた。売春婦のこと。

昼とんび 空巢泥棒。

ぺしゃる 喋ること。

豚箱 警察の留置場。「はこ」「サツバコ」「とめば」ともいう。

ほん ヒロポン（のちのヤク、シャブなど）という覚醒剤の注射をすること。ポン患とはその中毒患者のこと。

ほんず ブボンのこと。

まわす 輪姦。集団の場合は「廻しカッパの大カッパ」。新しい流行語での「集団レイプ」にあたる。

もさ 拘模サリ。戦後は主として「チャリンコ」と表現されている。

もく 煙草。「ネッコ」とも呼ぶ。

やきを入れる 「焼き入れ」。リンチ・拷問で制裁を加えること。

やさ 「家」。「隠れ家」「アジト」の意もある。

やさぐれ 「家出」すること。

やばい 「危ない」との意。

らくがき 「落書き」は入墨・文身をいう。

らりる シンナーで酔うこと。

りようわっぱ 両手錠のこと。

〔平成以降、最近の用語〕

頭にきた 腹が立ち、理性のブレーキが無くなること。もう怒ったという相手への通告の言葉。「キレる」「キレた」「マジギレ」「プチギレ」ともいう。相手が自己の非を棚上げてキレれば「逆ギレ」ともいう。

アッシー 自分の足となって飛び廻ってくれる男の子をいう。キャッシーとはキャッシユ・カードのように金を払ってくれる男（おじさんも含めて）。彼氏は「本命」、第二の彼氏として手なづけている男の子を「キープ」という。

アンパン シンナー遊びによる乱交パーティー（お祭り）ともいう。

意気がる 一般に調子よくキザに振舞うこと。「粹がる」と同音発音の表現をみるが、これは「粹」と文字どおりの意味。

いじめ 精神的には「死ね」などという脅しの言葉を吐いたり、悪口をいい、口を利かないといったこと。肉体的には叩く・蹴る・つねる・恥ずかしいことを無理強いさせる、髪を引っぱる。物的には持ち物を壊す・持ち物を取り上げ、または匿す、部屋に入れないようにするなどの排他的・攻撃的な行為をいう。

えんこ 中・高校生くらいの少女が、金品の援助という名目の交際で売春をおこない、遊びの金を得ること。

と。

おやじ狩り 粗暴少年が集団で、酒に酔った年配の男性・虚弱な感じの男性・ホームレス（浮浪者）などをターゲットとして襲い、リンチを加え、金品を奪う行動。他にホスト狩り・コギヤル狩り・ロン毛狩りなどがある。

オオチョン ファスナー付きの不良学生カバン。中味は空っぽ。

おたく 漫画や鉄道模型等々、何か一つの趣味・興味に没頭、あるいは熱中し、裏側にこもって周りが見えなくなっている状態の若者をいう。これが偏向し、非行へのヒントに連なつたとみられる事例もある。かつたるい 通常、親や教師に約束・宿題・掃除など、やるべきことをわざと怠つたりして叱られ、注意を受けたりする場合によく吐く言葉。面白くない、気乗りしない、面倒くさい、やる気が起こらないといった意味。

カラー・ギヤング 青・赤・黒・白・黄色など、それぞれ一色を全員が揃つてユニホームのごとく着用、互いに連絡を取り合い、看板やシャツターなどを壊して廻り、おやじ狩りなど何でもやるといふ不良グループ。アメリカナイズされた不良集団とも、多国籍化された不良集団とも、フリーランス化された不良集団ともいろいろいわれている。女子はピンク、ローズなどと称する独自のグループがあり、「ヤンキーやつてる」などという。青ギヤングがもつとも多く、勢力があり、ヤクザの青ギヤング狩りなどという動きもみられた。

カンベ 少年鑑別所のこと。少年院はネンシヨと呼ぶ。

グローブ 避妊用スキン。「オケイちゃん」とも呼ばれる。

けつ持ち 暴走族の役割分担の一つ。＼しんがり＼（最後尾・尻）にいて、パトカーなど警察車輛の追跡を妨害する役目の者。

毛抜き 男子は、眉を一直線に格好よく見せるため、毛を抜き、目立たせ、女子は、眉毛を剃り、細く眉墨

を塗り、薄化粧する。

コギャル 中・高校生クラスの少女をいう。パンダのようなアイシャドーに付けまつ毛、まつ赤に口紅をつけ、大人っぽい格好で派手な服・髪型をして、愛頑物ホビをジャラジャラ身につけ、原宿・渋谷などに集まる。目立つので不良グループに「コギャル狩り」などされる場合がある。

人工衛星 「玉」「玉入れ」ともいわれ、陰莖先端部にプラスチックの玉・真珠の玉を数個輪状に埋め込んでいる、その状態をいう。愚連隊・チンピラ・やくざ・遊び人の印の一つ。

ストーカー 忍び寄るという意味で、好きな女の子のあとをつける（尾行する）、しつこく付きまとう、待ち伏せするなどの方法で、最悪の場合、ストーカー殺人事件に及ぶ事例をも見る。

スパーリング 「スパーク」「殴り合い」というボクシング用語。学校でイライラ仲間・喧嘩気のある仲間同士が申し合いで、ふざけ合い、遊び半分で行っているが、負けたくない気持ち、虚勢・自尊心から本気ではげしくやり合ってしまうことがある。

たいまん 決闘のこと。

チーマー 不良少年集団。

チヨン靴 非行少女のはく先のがついている靴。

チヨンパ 非行少女のカバン。男子学生からもらった使い古しの角張った剥げつちよカバン。これに白いテープがついていると喧嘩買いますの印。青いテープがついていると喧嘩やりませんの印。

チヨンバック 手さげ紐ひもの長い非行少女特有のカバン。これにバンドエイドが張り付けてあると、私は処女ではありませんの印。

チャパツ 茶髪（金髪を含む）。はじめのころ、大人社会では不良の代名詞のごとく見られた。現在では個性を

出す一つのファッションとして認知されているようである。

チャリ 「チャリンコ」ともいい、自転車のこと。戦前は「ジテコ」「ぐる」との隠語があり、自転車泥棒などどとき用いられた。古い「モサ」「チャリンコ」をいう陶模（すり）と同音・同表記。

つつばる 「パシル」ともいい、譲らない、態度がでかいこと。「つつぱり」とはそうした不良少年の代名詞で、親・教師・社会・人間への不信・開き直り、あるいはそれへの翻弄の姿勢をいう。

動物園 学校のこと。

トロール トルエンのこと。純度により純トロ（九〇％）とクソトロ（七〇％以下）の別がある。

ニール シンナー遊びのときのビニール。

のぞき 女湯や女子トイレを覗き見ようとする。盗撮など悪質な手口もある。わが国では一九〇八（明

治四二）年三月二日、〇〇亀太郎が女湯を覗き、風呂帰りのその人妻を強姦絞殺、無期懲役となつた事件があり、のぞきが「出歯る」（亀太郎が出歯であつたことに由来）という流行語・隠語となる。イギリスではのぞきを「ピーピング・トム」とひやかされ、その仇名とされている。

パー券 パーティー券（チケッ）のこと。海外の偽券や不当に高い券の売りつけなどで、ときおり若者間のトラブルがある。

走り屋 暴走族と異なるが、車・オートバイでドリフトしたり、スピードを急に出したり、格好をつけるため法定の車高を下げるとかドレスアップするなどの細工をして走行すること。

バタフライ・ナイフ 蝶の羽の形をしたナイフで、中・高校生が護身用（喧嘩用）に所持、これが女子教師刺殺事件に使われ注目される。

ばつくれる わざと「とほける」、ふてくされて「やらない」「応答しない」「頼かむりしている」といった意。「フケる」ともいう。

引きこもり 引き籠り。「おたく」同様、テレビゲーム・ホラー物等々に熱中、自室に籠り、あげくは家庭内暴力や自殺に及ぶ変容の事態も見られる。「息子は王様、母親は奴隷」などという言葉を生むごとく、その典型として新潟少女監禁事件などが起こっており、トラウマ(精神的外傷)という大きな被害を与えるに至っている。

風船 シンナー遊びを指す。

ブチ家出 ふらりと数日間、習慣的に家出をする一種の放浪癖。

ブー太郎 職に就かずフラフラしている若者のこと。昔は「はんぐれ」といった。

暴走族 受験競争などからドロップアウトした子などが、集団で街路を爆音を立て暴走する少年グループ。

「ブラック・エンペラーズ」「何々スペクター」「キラ」みまろし「アウトロー」「鑿」みまろし「ダイナマイト」「阿あ修羅」しゆら「毘沙門天」びしゃもんてんなど、物騒な悪党を自認する名称を名乗り、おおむね何々連合などの連合組織、

地域的縄張りをもった〇〇支部などを舞台としている。事実上の暴力団予備軍といえるもので、八〇%は高校生、リーダーには退学した有職少年が多い。

ポコル ポコポコと殴ること。

まっさら 少年院用語で「お客さん」「新入生」のこと。

むかつく 相手のあいまいな言葉・態度・視線に、不快な感情を高ぶらせること。

ようらん 番長服。本来は洋服の意。格式によりタケの長さに差があり、中ラン・長ランとある。

ワンパン 先制パンチ。「ワンパンカマス」という。

ロケット シンナー遊びを媒介とする一対一のセックス。

ボンタン 非行少年がはく改良ズボン的一种。腿回りが太く、タック付き、ベルトの上の部分にかなりのダブつきをもたせている。

ロンドン 非行少年のボンタンにあたり、タケの長いスカート。靴下はこれに合わせ、くるぶしまで。夏は素足に靴である。

〔解説〕 近代警察・科学警察の進歩は著しいが、犯罪仲間で通用する隠語の分析は、符牒・方言にからめ、捜査の端緒・足取り・共犯関係を割り出すうえで、地道であるが今なお重要な役割を果たしている。

隠語は江戸時代に鉄火場の見張りや下働きをする三下奴の下品な悪態言葉、イカサマの博奕場用語から発したといわれ、これが歌舞伎・花柳界・ヤクザ・泥棒用語へと拡散している。江戸時代では古事を洒落、文字語調をもじつたものが多いが、明治・大正期から昭和前期（戦前）にかけては、地名を逆に表現し、あるいは省略したもの、人（男女・裁判官・巡査など）を動物や物に擬制する例をみるようになっており、ときに自嘲的な表現となっている。

戦後は英米の外来語が眼につくが、近年、とくに平成年代に入ってから、隠語という造形成、裏用語・コソコソ用語という表現から少しずつ変質してゆく傾向がみられ、特徴を衝動的・感覚的に把えている。そこより非行への認識、感覚を若者用語として読みとることができる。それはむしろ隠語というより、オープンな風俗語・流行語として読みとりながら、青少年の意識・心情を知る貴重な学習素材となってきた。

玄人筋^{くろうと}の成人の隠語の世界は、時代の遺物として次第に遠ざかりつつあるが、少子化・閉じ籠りの傾向を強める青少年用語は、ピカチュウ漫画の影響どおり自己チュー用語となり、幼児までが申し合わせたごとく都合悪くなれば、すぐ「疲れた」「眠い」など閉塞的言葉の先行が見られている。時代が言葉を生むといわれるとおり、このような特殊な言葉の窓からも時代が見え、青少年の心理が理解できよう。

〔参考文献〕

- 最高検察庁刑事部監修『隠語全集』刑務協会刊、一九五二年。
拙編『少年法演習』三九三頁以下、非行用語、新有堂、一九八一年。
拙著『刑事政策講義』（改訂版）一七二頁、外国刑務所の囚人社会用語、信山社、一九九四年。